2021 年度

（令和 3 年度）

事業計画書

2021 年 4 月 1 日より 2022 年 3 月 31 日まで

公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

2021年度事業計画策定にあたって

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、計画した多くの事業を中止せざるをえないという極めて異常な年となりました。
そして1981年（昭和56年）の国際障害者年を契機に翌年8月に設立された当基金として、設立時より大切にしてきた、障害の有無に関わらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあう「共生社会」の実現に向け、新型コロナウイルス感染症の対策を盛り込んだ事業のあり方を懸命に模索する１年でもありました。

ふれあいの広場事業は、当基金が設立以来、取り組んでいる事業です。スポーツや音楽等を通じて、障害のあるなしに関わらず共に参加し楽しむことのできるプログラムを創造し、自動車総連、各地方協議会のご協力をいただきながら、内容・規模ともに拡充しつつ開催してまいりましたが、２０２０年度は全会場が中止となりました。
今年度は、新型コロナウイルス感染症の予防に充分留意をした運営方法、競技内容、参加者の規模とし、日本福祉大学教授の藤田紀昭先生が中心となり開発した新たなプログラムをお届けできるよう、努力してまいります。なお引き続き全都道府県47会場での開催を目指して参ります。

「ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ」は、２０２０年度は、２０１９年台風１５号において被害にあわれた千葉県内の障害者施設での取組を予定しておりましたが、ふれあいの広場事業同様に中止となりましたので、２０２１年度に実施を目指すこととし、引き続き言葉を超えたコミュニケーションの手法を知っていただだけるよう、努力して参ります。

ユニバーサルスポーツの普及に関する調査研究では、コロナ禍におけるユニバーサルスポーツの開発と題した研究を実施いたします。新型コロナウイルス感染症の影響により取組が少なくなる中で、人との距離を保つだけではなく心の距離を近づける取組について、先駆的に取り組んでいる事例などを紹介しながら、推進して参ります。

昨今の低金利により、年々基本財産の運用が厳しい状況となっており、併せて新型コロナウイルス感染症の影響による経済状況等から、法人運営の財政的困難さが増しています。したがって賛助会員や寄付者の募集活動により積極的に取り組む観点から、ニュースレターおよびホームページの内容について検討して参ります。

多くの皆様のご理解とご支援のもと本年度事業が展開できますよう、引き続きのご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

２０２１年４月
公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

１．ふれあいの広場事業

（１）ふれあいのスポーツ広場の実施

障害の有無に関わらず、軽スポーツを通じ、共に楽しみ、交流することを目的とし、当基金設立時より実施している事業です。1992 年度以降は「全日本自動車産業労働組合総連合会（自動車総連）」より物心両面にわたるご支援をいただきながら、開催しております。

2020 年度には、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、予定した 47 都道府県全てにおいて中止せざるをえない状況となりました。

2021 年度は、ふれあいのスポーツ広場の意義・目的を踏まえつつ、競技内容や運営方法・開催形式の見直しを行いながら、新型コロナウイルス感染症対策に配慮をした実施を目指します。

競技内容については、日本福祉大学教授の藤田紀昭先生を中心に、非接触で人との距離を保ちながら実施できるプログラムの開発を進め、密にならない、換気、消毒など、スポーツ団体が規定したガイドラインに沿った内容の運営に努めます。

新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、開催自体の延期・中止も視野に入れながらの準備とはなりますが、多くの関係者、ボランティアの皆様のご支援をいただきながら、全力で推進してまいります。

実施時期 2021 年 5 月～ 2022 年 3 月
開催地域 全都道府県において１会場を予定
開 催 数 全国４７会場（予定）
共　　催 全日本自動車産業労働組合総連合会
後　　援 内閣府、スポーツ庁、開催都市、開催都市教育委員会等
協力団体 日本福祉大学 Echos
　　仙台ユニバーサルスポーツ研究会
　　（公社）日本エアロビック連盟
プログラム内容
日本福祉大学教授　藤田紀昭先生の監修の元、障害の有無に関わらず、誰もが共に参加し楽しむことのできる競技として、開発された競技を中心に実施しています。
新型コロナウイルス感染症対策のため、非接触・人との距離に留意をしたプログラムを実施いたします。

競技内容（例）

☆風船シュート

・風船を、１人１個ずつ配る。実行委員４人でネットを持ち、参加者の頭上を通過していく時に、参加者が座ったまま風船をネットに投げていく。勝敗は、ネットに入った風船の割合で決めます。

☆風船パス

・１施設に１風船（大）を用意する。風船を落とさずにパスやバレーボールの要領で上にボールをあげたりして回していく。参加者は椅子から立って、円になるようなレイアウトに変更する。実行委員は、ソーシャルディスタンスをとった距離を保って、円の中心でサポートに入る。

風船をついた回数が多い方が勝ち。（途中で落としても、カウントはゼロに戻さずに、そのままプラスして数える）

☆じゃんけんダンス

・インストラクターの進行で、ふりつけダンスとじゃんけんダンスを行う。

＜わきプレス４　回＞→＜拍手４　回＞→＜膝たたき４　回＞ダンスの中でじゃんけんポン。

☆スローエアロビック

・スローエアロビックは、シンプルで自然な動きを取り入れながら、カロリー消費ではなく、気分を好転させることを重視しています。音楽に合わせて楽しく体を動かすというエアロビックの本質的な魅力を、運動強度が低い運動へと裾野を広げようという考え方に基いています。

※出典：（公社）日本エアロビック連盟 web ページ

（２）ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップの実施

障害の有無に関わらず、お互いが尊重し合えるためのコミュニケーションのあり方について学ぶ場として、ノンバーバル（非言語）によるコミュニケーションについて学ぶ場づくりをいたします。

2020年度は、2019年台風15号において被害にあわれた千葉県内の障害者施設での取組を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となりました。

2021年度は、引き続き千葉県内の障害者施設での実施を計画いたします。

実施時期：2022 年 2 月
対 象 者：障害のある方、教職員、ボランティア等
ファシリテーター：庄﨑　隆志氏（office 風の器主宰・俳優・演出家）
メイミ氏（漫談家・特定非営利活動法人笑顔工房 理事長）

２．開発、普及及び育成事業

（１）各事業報告書の発行

障害のあるなしに関わらず、共に楽しむことのできる手法で、様々な事業展開をしている中で、その考え方や手法を、多くの方に知っていただき、様々な活動の中で取り組んでいただけるよう、下記の報告書を2022 年度末に発行致します。

刊行時期：2022 年 3 月
発行部数：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。
発行報告書：ふれあいのスポーツ広場 / ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ / 調査研究事業

（２）ニュースレターの発行

当基金が設立以来、事業活動の基礎とし周知に努めている障害のあるなしに関わらず共に楽しみ、取組ながら相互理解を深めていくための「ふれあいの広場」事業を、その理念や活動内容、プログラムの手法などの情報を掲載した機関紙「ないすはあと」を年 4 回発行し、多くの方々にこの活動の理念を知っていただくため、内容の充実に努めていきます。

発行月：６月、９月、１２月、３月
発行数：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。
内　容：ふれあいの広場事業に関わるプログラム内容、手法、実施の状況等

３．調査研究事業

（1）コロナ禍におけるユニバーサルスポーツの研究～新生活ルールに適応した競技の礎となるために～

新型コロナウイルスの感染拡大において、新生活ルールが定着しつつある中で、3密を避けながら安全に事業を行う必要性が生じてきました。私たちが大切なものとして考えてきた、垣根をなくすこと、人の距離を縮めていくことを行うための安全なプログラムを作り出し、提供する必要があります。

今回、障害福祉サービス事業所や障害児教育の現場で、安心して障害の有無に関わらず行うことができる「ユニバーサルスポーツ」を、専門家の意見を踏まえて、新生活ルールに適用できる非接触な競技として開発したいと考えました。

スポーツを社会参加の一環とされる障害福祉サービス事業所の方々が、その機会を減らさないために、またスポーツを触媒とした地域とのつながりが分断されないことを願い、実施いたします。

実施概要

実施主体　公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金
　　有識者による研究会

研究目的　新型コロナウイルス感染症対策のための非接触・人との距離に留意をしたプログラム開発とモデル事業の実施

成果物　報告書を作成。当基金ホームページにて配布